

# 学童クラブと共に歩む人々

学童クラブは保護者や学校をはじめ、地域の人や各種団体などさまざまな人たちが関わり成り立っています。



沼田東学童クラブ卒業生  
小林藍さん（東原新町）

## 居心地よい思い出の場所 今では支援員に

沼田東学童クラブで1年生から5年生までを過ごし、姉2人もお世話になりました。退所してからもよく顔を出したり、中学校の卒業が近づくと、同学童クラブを利用した同級生たちとあいさつに行ったりと、居心地のよい思い出の場所になっています。

今年3月に高校を卒業し、心理カウンセラーを目指すため大学へ進学。この頃、同学童クラブから支援員としてアルバイトの話をもらい、お世話になった人たちのために頑張ろうと週2回引き受けました。何より子どもたちがかわいく、触れ合う時間が楽しいです。

併せて、新型コロナウイルスから子どもを守ることを意識し、会話や声掛けで子どもの気持ちが明るくなるように、おにごっこで駆け回ってストレス発散できるようにと、自分らしくできることに挑戦しています。先生たちからは今は共に働く仲間として気に掛けてもらい、温かい気持ちになります。



中学校卒業前  
から小学3  
年生まで  
学童クラブ  
を訪問し  
た（前列右  
から）さん  
（番号）



お笑い芸人  
せきあっしさん（柳町）

## 子どもの笑顔に励まされ、芸をできることに感謝

4年前から市内学童クラブを巡回。イベント中止、施設にも行けない状況が続いていましたが、夏には沼田東学童クラブなどを訪問し、自分の体の前に透明のビニールシートを貼って飛沫対策をしながら、子どもたちの前で芸をすることができました。

今年5月、SNSを通してある依頼を受けました。

いちご農家を支援するため、国から支給された給付金を使ってイチゴを買います。地域の子供たちへ届けてもらえますか——。

私のファンのお父さんからでした。私も関わり続けている施設や子どもたちが気になり、何か力になりたいと思っていたので依頼を引き受けました。市内学童クラブなど、県内外7施設にイチゴを届けることができました。

5月20日、沼田東学童クラブと沼田東第2学童クラブを訪問。「あっしが来たよ」「イチゴを持ってきたよ」と呼び掛けると、皆、喜んで迎えてくれました。芸ができない状況になり改めて、子どもたちの笑顔に支えられ励まされていると感じることができました。

1983年生まれ、本市出身。県内の保育施設や学童クラブ、子ども向けのイベントなどでお笑い芸人として活動している。自らが紙芝居の一部になる「人間紙芝居」を得意芸としている



（写真）右・届けたイチゴ  
を持って記念撮影／左・  
飛沫対策をして芸をする